

2021年度募集「重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成」 助成団体選考結果のご報告

概要

| | |
|---------|--|
| 募集対象 | 重い病気により長期入院や長期療養をしている子どもの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動。 |
| 募集期間 | 2020年7月20日～2020年9月25日 |
| 応募数 | 26件 |
| 採択事業数 | 7件 |
| 助成金総額 | 計 11,000,000円 |
| 活動期間 | 2021年4月1日～2022年3月31日 |
| 助成選考委員会 | 本テーマに関して専門的知見を持つ5名の助成選考委員（当財団理事 1 名と外部有識者 4 名）で組織する助成選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。 |

選考委員長より

本助成は、重い病気により困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学びを支援する事業を対象としたもので、今回で6度目の実施となります。助成選考委員会にて厳正に審査を行い、今年度は多くの団体を支援するために7件を採択し、助成総額を引き上げ、11,000,000円としました。

今回の審査でも例年通り、以下の観点を重視しました。

- ・ モデル性：他の団体のモデルとなりうる効果的なプログラムやコンテンツ、ツール、ノウハウ等があるか
- ・ 地域との連携：病院や学校などとの連携により、活動の実効性が高いか
- ・ 継続性：助成終了後の事業継続の見通しがあるか
- ・ （2020年度助成団体について）2020年度の活動からの発展性があるか

各団体がコロナ禍においても重い病気を抱えた子どもへの支援を絶やさぬよう試行錯誤を重ねておられる中で、事業の目的と展開が明確で、事業の実施と発信により幅広い方々への波及効果が見込まれる団体が助成対象となりました。各団体で評価された点は、後の一覧にて述べています。

すぐれた取り組みではありますが、今回採択に至らなかった申請については、概ね以下のような傾向が見られました。

- ・ 本助成の主旨・支援対象と合致しなかった。
- ・ 実態の把握不足もしくは、課題の捉え方が一般的で、解決すべき課題の焦点が絞れていなかった。
- ・ 解決したい課題と解決方法（実行項目、費用、スケジュール）の一貫性が読み取れなかった。
- ・ 事業内容に拡大すべきモデル性が認められなかった。

採択された団体の皆様には、本テーマにおいて先駆的な活動を実践している団体として、よきモデルとなっていていただくことを期待しています。また、当財団では、助成団体をサポートするだけでなく、本テーマがいっそう社会的に認知され、関心が広がることに寄与する活動や、団体同士の情報共有・学びあい・連携に資する取り組みを、積極的に進めていきたいと考えています。

2020年12月
公益財団法人ベネッセ子ども基金
理事・助成選考委員長
耳塚寛明

| | 団体名 | 事業名 | 助成額 | 所在地 | 選考にあたっての 評価点 |
|---|--------------------------------|--|------------|-----|--|
| 1 | 特定非営利活動法人 i-care kids 京都 | 医療的ケア児や重い障害を抱える子どもたちの“食”の世界を広げるプロジェクト | ¥600,000 | 京都府 | ・「食」の重要性に着目して、オンラインで情報を提供していく事業は意義がある。保育している児童や保護者に限らず、広く発信していく取り組みであることを評価。 |
| 2 | 特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス | 重い病気を抱える子どものための「おしごとカフェ」の開催 | ¥1,900,000 | 兵庫県 | ・10代になった子どもたちが社会体験の機会を得て、自己効力感を持てる取組は、広い意味でのキャリア教育のモデルとして他団体への波及を期待したい。 |
| 3 | 公益社団法人 難病の子どもとその家族へ 夢を | 医療的ケア児と家族の為にホームスクールプロジェクト！ | ¥1,500,000 | 東京都 | ・在宅医療に連動した訪問型ホームスクールや保育園等の情報提供・見学機会づくりは意義がある。 |
| 4 | 認定特定非営利活動法人 ポケットサポート | G I G Aスクール構想と組み合わせた病気を抱える児童生徒の地域連携支援 | ¥1,800,000 | 岡山県 | ・計画が具体的。課題を施策につなげられる基盤と実行力を高く評価。 ・コロナ禍以前からオンラインでの学習支援を行っており、積み上げた知見が、他団体へ広く共有されることを期待したい。 |
| 5 | 特定非営利活動法人 未来ISSEY | 香川県内におけるがんや難病の子どもとその家族のケアサポート事業 | ¥1,900,000 | 香川県 | ・2020年度にコロナ禍において、病児との関係性を絶やさぬ工夫をし、その活動を踏まえた申請内容であることを評価。支援体制を確立することに期待したい。 |
| 6 | 勇者の会 | 小児ガン患者に対する学習支援および心の発育のサポート | ¥1,400,000 | 北海道 | ・病児の学習支援事業が少ない地域における活動であり、これまでの大学との連携を強化して、活動の拡大に期待したい。 |
| 7 | Wonder Art Production | 全国と世界の病院をつなぎ子どもたちの創造力と表現力を豊かに育む学びと交流支援事業 | ¥1,900,000 | 宮城県 | ・子どもたちの主体的な学びとしてアートに触れ、その成果物を通じた患児同士の交流があることを高く評価。 |

【団体名】

特定非営利活動法人 i-care kids京都

【URL】

<https://i-carekids.com>

【申請事業名】

医療的ケア児や重い障害を抱える子どもたちの“食”の世界を広げるプロジェクト

【メッセージ】

2020年度に引き続き、私たち団体の「医療的ケア児や重い障害を抱える子どもたちの“食”の世界を広げるプロジェクト」に、ベネッセこども基金のご支援を賜り心から感謝を申し上げます。

新型コロナウイルスの影響を受ける中、2020年4月に医療的ケア児が通える小規模保育園キコレを京都市左京区に開園しました。コロナ禍で人と人との距離が大きくなる中、ベネッセこども基金のスタッフの皆様には、事業がしっかり軌道にのるように心配りをしてくださったり、他の団体との橋渡しをしていただいたり、とても心強く、ありがたく感じています。本当にありがとうございます。

小規模保育園キコレには、今年度7名の園児が在籍しています。3名が医療的ケアを必要とする子どもたち、4名が医療的ケアは必要ないけれど、重度の障害を抱える子どもたちです。園児たちは、鼻のチューブからミルクを摂取する子、ペースト食を口から食べる子、きざみ食を食べる子、普通の幼児食を食べる子など7人7様の食事形態です。病気や障害があってもなくても、子どもたちが豊かな“食”の体験を積み重ねてほしいという願いから、保育方針の一つにも“食育”を盛り込み、様々な活動に取り組んでいます。

2020年度は新型コロナウイルスの影響があり、計画していた医療的ケア児をもつ家族や関係者のためのシンポジウムや勉強会を開催することができませんでしたが、保育園の方では、季節の野菜を園庭で育て、収穫し、料理し、食べるという一連の活動を子どもたちと取り組みました。また、梅や紫蘇ジュースを作ったり、うどんを打ったり、ピクニックごっこをしたり、様々な食の体験を積み重ねました。子どもたちは園で育てた野菜がきっかけで緑の野菜を食べられるようになったり、食事の量も増えたりと、保護者からも嬉しい声が寄せられました。

2021年度の事業では、保護者や他園からのリクエストも高い小規模保育園キコレの食の取り組みを、ホームページから発信することに取り組みたいです。給食やおやつメニューを紹介したり、子どもの障害や疾患によって変化させている食事形態の工夫や、保育園での子どもたちとの食育の取り組みなどをホームページで紹介し、多くの方々に伝えることができたらと考えています。また、2020年度には実現できなかった食のシンポジウムや勉強会を感染予防に組み込みながら実施することができたらと考えております。引き続き保育園では、子どもたちと共に楽しい食の体験を積み重ねていきたいと考えております。2021年度もどうぞよろしくお願いいたします。

【団体名】

特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス

【URL】 <http://www.kemohouse.jp/>

【申請事業名】

重い病気を抱えるこどものための「おしごとカフェ」の開催

【メッセージ】

この度はご支援を決定頂き誠にありがとうございます。

NPO法人チャイルド・ケモ・ハウスは、2006年より活動を開始し小児がんの子どもと家族の支援や療養施設の設定、啓発事業等を行ってきました。

ベネッセこども基金様には、これまで人材育成と啓発事業にご支援をいただけてきました。人材育成事業では重い病気をもつお子さんへの支援者の幅をひろげることができ、啓発事業では「かえっこバザール」というおもちゃの交換会を開催し100名以上の地域の方に重い病気のお子さんや取り組みについて知っていただく機会をつくることができました。みなさまのご支援に心より感謝致します。

みなさまもご存じの通り、現在、重い病気をもちながら地域で暮らす子どもたちが増えています。病院での治療後、退院はしたものの治療の影響を受けていたり、根治が難しいなど様々な課題を抱えています。

そんな子どもたちが病気を抱えながらも大切なものを大切に、可能性を必要以上に狭めることなく自分の将来や仕事について考えることができるような場をつくりたい。そのような思いから今回の助成事業「おしごとカフェ」を実施したいと考えました。

「おしごとカフェ」では小学校高学年から高校生を対象に様々な職種の人たち・ボランティア・就労支援を行っている事業所の人・当事者に協力していただき、様々なことを話したり、体験ができる場を提供します。また新型コロナウイルスの影響により、人が集まることができない可能性が高いため、その場合はオンラインで「おしごとカフェ」を体験できるようにと考えています。

今回のみなさまのご支援が重い病気の子どもと家族の心の支えにつながるような活動にしたいと思っております。

【団体名】

公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を

【URL】

<https://www.yumewo.org/>

【申請事業名】

医療的ケア児と家族の為のホームスクールプロジェクト！

【メッセージ】

この度は、2021年度 重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成に、当法人のプロジェクトを採択していただきまして、誠にありがとうございます。

当法人は、2010年に設立し、全国に30万にいてもと言われる小児難病を患う子どもとその家族を応援することを掲げて10年間、日々、病気と闘っている家族に、非日常を味わってもらいたく、テーマパーク等にご案内する家族全員旅行等を実施して参りました。

一方で、その家族からのヒアリング等で、日常がどれだけ大変であるかを教えていただいたことで、日常サポートとして小児専門の訪問看護ステーションを立ち上げました。しかし、医療的ケアが必要な子どもとその家族を支えていく為には、医療のみならず、学びや遊び、包括的サポートは欠かせません。特にNICUを退院したあとに家族が直面する過酷なケア、未就園期の居場所の問題、学びの場の欠如は深刻であり、放置されてしまっている医療的ケア児とその家族も多くいるのが現状です。

そこで、本助成事業で、学びや表現の場が必要な医療的ケア児や保育園等に入園する権利を奪われている医療的ケア児の家庭を訪問し、母や兄弟児と一緒に発達に必要な遊びの提供、感覚発達を促す身体表現、五感を刺激していく表現活動、ICTを使った学びの場の提供などを主にした「医療的ケア児と家族の為のホームスクールプロジェクト！」を実施することに致しました。

ホームスクールプロジェクトでは、一般市民の皆様にも、プロジェクトの成果を見ていただき、皆様とともに考える場を作ることで、より社会的意義のある活動にしていきたいと願っております。

是非、ベネッセこども基金の皆様をはじめ、多くの皆様にも、本プロジェクトのまとめとなります、発表会＆シンポジウムにお越しいただき、ともに子どもたちの成長を見守るサポート役になっていただけたら、とても嬉しく光栄でございます。どうぞ、よろしくお願い致します。

【団体名】

認定特定非営利活動法人 ポケットサポート

【URL】

<https://www.pokesapo.com/>

【申請事業名】

G I G Aスクール構想と組み合わせた病気を抱える児童生徒の地域連携支援

【メッセージ】

当団体が申請した事業を評価・選考いただきありがとうございます。

ポケットサポートでは、2011年より、病気の子どもの学習支援を行ってきました。長期の入院・療養で学習に空白ができてしまう子どもたちが多くいます（そういった空白を「ポケット」と呼んでいます）が、体調の良し悪しで、その時その時の状況が変わる中、子どもたちに合わせた柔軟な対応のできる学習支援者や学習環境が必要です。

そのためポケットサポートでは、入院中の子どもの院内学級でのサポートやベッドサイドでの学習、退院後もすぐに復学できない子どもへの学習支援を行ってきました。

2021年度は、2020年度のアンケート調査結果から得られた現場のニーズをもとに、GIGAスクール構想と組み合わせた形で病気療養中の子どもたちへ支援を届けるための施策の充実を図っていきます。様々な支援団体や教育委員会、NPOなどと協力しながら支援体制を整え、岡山から病気を抱える子どもたちの支援活動の発信にも努めていきたいと考えています。

また、アンケート調査から見てきた学校や医療の現場が抱える課題を、県内各地域の学校の先生方とも共有し、地域支援ネットワークを構築しながら、頑張っている子どもたちに支援を届けられるよう、協力体制を整えてまいります。

引き続き新型コロナウイルス感染症の対策を徹底しながらの事業になりますが、一人でも多くの子どもたちの笑顔につながるよう、活動を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【団体名】

特定非営利活動法人 未来ISSEY

【URL】

<http://www.miraiissey.com/>

【申請事業名】

香川県内におけるがんや難病の子どもとその家族のケアサポート事業

【メッセージ】

この度は前年に引き続き「香川県内におけるがんや難病の子どもとその家族のケアサポート事業」へ助成をいただきまして、本当にありがとうございます。

未来ISSEYはこれまで対象者が少数ということもあり、十分なサポートがなされていなかった香川県の長期入院・療養している子どもやその家族への支援をしたいということで2018年11月に立ち上げた団体であり、2020年10月に法人化いたしました。

昨年度の「重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成」をいただくことができ、現在慢性疾患の子ども達とその家族を支援するための活動を行うことができています。それは未来ISSEYにとって大きな追い風となりました。しかしコロナ禍という厳しい状況において直接病院に訪問しての学習支援は難しいことが多く、代わりに学生手作りのワークや手紙を届けたり、オンラインでの支援が中心となっています。コロナで苦しめられていることが多い反面、オンラインの活用という新たな可能性も見出すことができました。コロナ終息が見えない中、さらに孤立を深めている対象者へ少しでも寄り添っていける活動を引き続き行っていきたいと思っております。

そして今回は、病院はもちろん、行政機関等との連携強化を図るため、シンポジウムの開催も予定しています。地域に根差し、事業を継続して行っていくことができる礎を築いていきたいと考えています。

どうぞ今後ともよろしくお願い致します。

【団体名】

勇者の会

【URL】

<https://sapporo-machizukuri.com/org/4493>

【申請事業名】

小児ガン患者に対する学習支援および心の発育のサポート

【メッセージ】

この度は、私達団体の「小児ガン患者に対する学習支援および心の発育のサポート」に、公益財団法人ベネッセこども基金のご支援を賜ります事、心より感謝申し上げます。

私達、勇者の会は小児ガンの子どもとその家族を支える会です。
新型コロナウイルス感染症が流行する前からインフルエンザや他の感染症の恐れを考え、教室にて対面で行っていた勉強を、昨年秋から春までの予定でオンライン授業に切り替えてサポートしておりました。

そのような中、新型コロナウイルス感染症の流行が酷くなり、感染してしまうと普通の子どもより重症化しやすい子ども達を守る為、今回購入させて頂く学校の教科書をもとにオンラインにて出来る限り小・中・高校生の勉強サポートをしていきたいと思いをします。

また幼児とのふれあえる時間も出来なくなってしまった為、9月から未就学児の幼児教育にも力を入れ始め、絵本の読み聞かせ・エプロンシアター・ひらがな・カタカナ・数字・図工・お遊戯など、病気で幼稚園や保育園への入園を断られた子どもを中心に授業をすることにしました。

幼稚園に通えないまま小学校へ入学せざるを得ない子ども達の為に、少しでもオンラインで幼稚園に通った気分になってもらいたい、病気になったからといって何も出来なかったと諦めるのではなく、今やれることを勇者の会で少しでもオンラインでチャレンジして幼児にも幼稚園感覚を楽しんでもらいたい気持ちです。

学習支援を中心とした団体は北海道にはまだないので、これからももっと一生懸命活動をしていきたいと思いをします。

【団体名】

Wonder Art Production

【URL】

<https://www.masakotakahashi.website/>

【申請事業名】

全国と世界の病院をつなぎ 子どもたちの創造力と表現力を豊かに育む学びと交流支援事業

【メッセージ】

このたびはベネッセこども基金のご助成をいただき、心より感謝申し上げます。

申請事業は、2006年から継続しているホスピタルアート活動です。全国と世界の病院で入院中の子どもたちに、「アート」を媒体とした学びと体験を届けてきました。

長期入院の子どもたちは、受け身の生活を余儀なくされ、自信ややる気を失いがちですが、自らが主役になり、主体的に関わる創造的な活動を通して、心を前向きにはこびます。

15年目となる2020年は、新型コロナウイルスの影響により訪問活動が出来なくなりましたが、リモート版の事業を開発して参加を呼びかけたところ、全国15病院と海外1病院が参加しました。面会制限や交流事業の自粛が続く病院で、大きな喜びや反響をいただいています。

新型コロナウイルスの影響が長期化することが予測される2021年も、リモート版の活動をバージョンアップして、子どもたちに楽しい創造体験をはこびます。全国と世界の病院で実施し、各地で生まれた作品は紙媒体の展覧会“ペーパーミュージアム”で共有し、オンラインも駆使して参加者同士の交流を促します。

病院訪問が制限されても、入院中の子どもたちにワクワクする時間を届けたい。100病院以上で3000人が参加してきたホスピタルアート活動ですが、子どもたちの眼に光りが灯り、表情が変化し、達成した時に見せる笑顔や自信に満ちた表情に、この活動の力を感じています。今回のご支援により、より多くの子どもたちに活動を届けられることを嬉しく思います。どうぞよろしく願いいたします。